

平成21年度 教員による学校教育自己診断結果（多部制単位制Ⅲ部）

平成22年3月実施

診断結果から得点の高い順に項目をあげると

33	在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している	3.83
34	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している	3.78
37	体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている	3.72
18	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる	3.67
35	固定的な性別役割分担意識を是正し、男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している	3.67

得点の低い順に項目をあげると

29	教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている	2.32
67	支援学校との交流の機会を積極的に設けている	2.50
11	グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている	2.58
50	この学校では、清掃がいきとどいている	2.68
27	学校として、生徒が達成感を得られるよう、部活動の活性化について工夫している	2.72

人権教育と教育相談体制の評価が高く、生徒による診断結果にもそれが反映されている。全体の平均点が 3.07 → 3.19 と上昇したことはうれしい結果である。上昇率ベスト5に項目 14「評価の在り方について話し合う機会がよくある」、項目 52「各教科の備品や教材教具が十分に活用されている」、項目 56「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」が入り、授業へ前向きな取り組み姿勢が表れている。一方、項目 9「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」、項目 10「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」、項目 11「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」のポイントが下がり、授業内容に悩む教員の姿が浮かび上がる。

項目 20「生徒指導において、関係諸機関との緊密な連携ができています」が 0.5 ポイントアップしたが、項目 16「生徒の問題行動がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている」が 0.2 ポイントダウンしているところは改善の必要度が高い。得点の最も低い項目 29「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」はこのような活動の経験の少ない本校生にとって学校としての取り組みが求められるものである。フラワーロードの整備や学校周りの清掃活動などより活発なものとする必要がある。項目 50「この学校では、清掃がいきとどいている」のポイントも低い毎日の教室清掃活動のない本校において清掃活動を増やすなど、改善の余地はある。

最後に項目 39「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」のポイントが平均点以下であることは真摯に受け止めなければならない数字である。